

【環境モニタリング調査報告書案に関する質疑及び意見に対する事務局の回答】

NO	項目	レク時の質問及び意見	回答及び対応
1		公園のあり方として、アクセス時に県知事意見でも出ているように、高架道路ができることにより、圧迫感、日影、騒音の発生による影響が懸念されているが、この中でも供用後の騒音についてどのくらい大きくなるのか予測ではなく実測値として把握(調査)しておく必要はないのか。	(レク時の回答) アクセス時の予測結果は供用後に自動車の走行によって発生する騒音は特に問題ないとしている。むしろ高架道路よりも一般道の騒音の影響が大きいとされていた。 騒音の専門委員からの前言の内容は2のとおり。
2	香椎浜北公園について(騒音)	過去の予測結果をもとにするのであれば、高架構造物を考慮したものか、その影響が最も大きくなる高架下で予測したものか、確認が必要。予測での説明が難しいようであれば、供用前後で実測し比較することも一案である。	(レク時の回答) 過去の予測結果等の詳細を確認し、検討する。 (回答の補足) 後日、過去の予測結果等を確認した上で、騒音の専門である委員へ相談し、以下についてご助言頂いた。 アイランドシティ線(高架道路)から発生される騒音は、(1)車両走行音と(2)高架道路の構造物音が考えられる。 (1)に関しては、アイランドシティ線は全区間排水性舗装であり発生音が小さく、さらに道路はアスファルト舗装と舗装下のコンクリート層で構成されているため、地上部への透過音は極めて小さい。以上から、高架道路下へ伝播する騒音は極めて小さいと考えられる。 (2)に関しては、北公園区間には構造物音の発生原因となるジョイント部分がないため、構造物音の発生はほとんどないと考えられる。 また、アクセス時に北公園東側で測定と予測が行われており、その結果は、近接する一般道(市道奈多香椎浜線)の影響がほとんどであり、公園内の一般道路側と高架道路下における予測では、アイランドシティ線からの騒音レベルの差はわずかであった。 以上の理由により、北公園内の騒音についてはアクセス時の調査地点での状況を把握することで推定することができることから、公園内において測定する必要はないと考えている。
3	香椎浜北公園について(人と自然との触れ合いの活動の場、景観)	香椎浜北公園の整備が今年度終了予定とのことだが、来年度の報告で公園の図面等は提出されるのか。	(レク時の回答) 令和2年度中には工事が終了する見込みである。来年度の有識者委員会で示したい。
4	香椎浜北公園について(人と自然との触れ合いの活動の場)	令和4年度に行う「人と自然との触れ合いの活動の場」の調査はどのようなことをするのか。	(レク時の回答) アクセス時と同じ内容の調査になると思われるが、専門家に相談しながら実施したい。 (回答の補足) 令和3年度に調査計画を提示予定である。
5	香椎浜北公園について(動植物)	公園の復旧とのことであるが、高架道路下の植物については日照状況を考慮した植栽をお願いしたい。	(レク時の回答) 高架道路下はもともと芝生であったが、現在の計画ではクレイ舗装としている。植栽については検討していきたい。 (回答の補足) 高架道路下は雨がかかりにくいことから、クレイ舗装以外の東西のエントランスについては耐乾性、耐潮性のある地被類(ハデラヘリックス)を新植の予定である。
6	環境保全措置の実施状況を把握するための調査(建設工事に伴う副産物)について	発生した副産物について再資源化率・再利用率はどの程度であったか。	(レク時の回答) アスファルト・コンクリート塊は100%再資源化施設へ搬出している。 建設発生土については、一部を現場内で再利用した。 残土については、周辺の仮置き場に仮置きし他事業において利用する計画である。建設発生土については、全工事完了時において、最終量を集計する予定である。 (回答の補足) 副産物のうち建設汚泥についても100%再資源化施設に搬出している。
7		アスファルト・コンクリート塊の再資源化施設への搬出量、再資源化されたアスファルト混合物の利用量とその割合はどの程度か。	(レク時の回答) 令和元年度における各工事区間の合計(参考値)では、アスファルト・コンクリート塊の再資源化施設への搬出量:約518m <sup>3</sup> 再資源化されたアスファルト混合物の利用量:約117m <sup>3</sup> で、概ね2割程度である。
8	環境保全措置の実施状況を把握するための調査(グリーン購入法に基づく特定調達品の利用状況)について	上記について、工事期間を通じた集計結果がわかるのであれば、結果を報告書に記載することで、工事を通じた資源の循環化が図られている根拠となる。	(レク時の回答) 検討する。 (回答の補足) 当初のモニタリングでは再資源化物の利用の有無や品目などを調査対象とし、量の把握は行っておらず、参考として集計していた。 令和元年度以前に通った集計の可否を確認の上、次年度の報告書への掲載を検討する。
9		各地点のSS、濁度については、工事前後で比較すると工事後に上昇しているように感じる。R1年度のとりまとめに関しては影響なしとも良いと思うが、工事全体を通じた変化についての見解も必要ではないか。	(レク時の回答) 気象等の影響により時折、高い値もみられるが、それらを除けば概ね工事後は同程度と評価している。
10		DOについて、S-1、S-2では夏季に表層、底層に差がみられるが、御島海域のS-3ではそれが見られない。底質環境の差を考慮するのか。	(レク時の回答) S-3については水深が2m程度と、他の2地点に比べて浅いため、表層(水面下0.5m)と底層(海底面上1m)の値の差が小さいと考えている。
11	水質	SS、濁度の工事前後の評価、S-3のDOについては、事務局の見解と同様に考えている。	-
12		令和2年度に実施されるS-3'について、過去の調査結果はわかるか。	(レク時の回答) 詳細な結果は手元にないが、平成29年度に測りの詳細調査として1回実施したS-8の調査結果があり、今後、結果の比較は可能である。
13		T-Nが冬場に上昇する傾向があるが、どの様に考えているか。	(レク時の回答) 他機関で別途実施されている博多湾の水質モニタリングにおいても、冬季にT-Nが上昇する傾向がある。詳細な要因は不明だが、水温の低下に伴う底泥中の微生物による脱窒機能の低下などの可能性があると考えている。
14		考察に「赤潮の影響」との記載があるが、現地において着色が観察された写真などはあるか。	(レク時の回答) 写真は撮影している。また、現地では参考としてクロロフィル蛍光強度も測定しており、他の調査時に比べて高かったことが確認されている。
15	環境保全措置の実施状況を把握するための調査(温室効果ガス)について	表1-3-4などに記載された影響要因のうち、建設機械の稼働と工事用車両の運行に関する環境要素として、温室効果ガスとの記載があるが、調査結果にはそれに対する記載がない。また、その他の環境要因で温室効果ガスについて網羅的に結果をとりまとめているため、表中の記載の整合は図っておいたほうが良い。	(レク時の回答) 修正する方向で検討する。 (回答の補足) その他の環境要因として温室効果ガスをとりまとめ、建設機械の稼働と工事用車両の運行に関する環境要素の温室効果ガスの記載を削除するか検討する。
16	全体調査計画について	現在実施されている工事中の調査と、供用後(水質)の調査に関して、詳細を確認したい。	(レク時の回答) 現在、工事中の調査として環境保全措置の実施状況調査を実施しているが、渡海部では上部工に関する仮橋等の影響がなくなったことから、今年度より供用後の位置づけとして水質調査を実施している。